



# 【実施報告書】

「海の祭2021 ～いま、これから～」  
(海の祭ismプロジェクト2020報告会)

一般社団法人マツリズム

2022年1月13日



## 告知ページ

<b>イベントタイトル</b>	海の祭2021 ～いま、これから～ (海の祭ismプロジェクト2020報告会)
<b>目的</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 海の祭ismプロジェクト2020として、リアルな祭がない中でどんなチャレンジをしてきたかを伝える</li><li>2. マツリズムが「海の祭」に対してどのように向き合い、どのように関わってきたかの報告と、それらを通じて何を学、何を残していきたいと考えているかを報告する</li><li>3. 参加者に、海の祭が持つ魅力・可能性や、海の祭ismプロジェクトの面白さを感じてもらう</li></ol>
<b>日程</b>	2021年7月22日（祝・海の日）
<b>開催方法</b>	YoutubeLiveを活用したオンライン配信
<b>配信会場</b>	マリンスクエア 2F（静岡県熱海市渚町7-5）
<b>参加人数</b>	約70名
<b>協力</b>	日本財団「海と日本プロジェクト」
<b>告知方法</b>	特設ページの作成 各種プレスリリース（事前・事後） メール、SNSによる任意の拡散 など

## 実施内容

13:00～13:15 【オープニング】海の祭ismプロジェクト概要

13:15～14:00 【基調講演】幸福学の第一人者と考える「ポストコロナ時代の祭の価値」

14:00～14:15 【海の祭紹介】熱海こがし祭り

14:15～15:30 【海の祭ismプロジェクト2020報告】

①海の祭体験プログラム、②海の祭開拓・取材、③海の祭に関する調査

15:30～16:05 【ディスカッション】大学生と考える「海の祭」と「祭の未来」

16:05～16:15 【クロージング】



# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## イベント告知について



特設ページの作成

## youtube視聴者（参加者について）

### 【参加者人数について】

- ・HP（ペライチ）からの参加 : 36名
- ・Peatixからの参加 : 21名
- ・当日参加 : 約15名程度

### 【参加者属性について】

- ・担い手 : 7名
- ・観覧者 : 9名
- ・参加者 : 21名
- ・その他 : 約35名程度

## 【オープニング】海の祭ismプロジェクト概要

13:00-13:15 オープニング

大原 学

一般社団法人マツリズム 代表理事  
マツリテーター

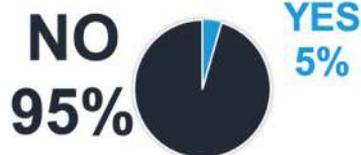


冒頭に代表大原からイベントの概要説明、また海の祭ismプロジェクト、海の祭についての講義が行われました。



### 2020年度 海の祭調査結果

あなたは、海の祭と聞いて思い浮かぶ祭  
はありますか？



ほとんどの人が海の祭を知らない

16

### 海の祭は全国に5000以上！



# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 【基調講演】幸福学の第一人者と考える「ポストコロナ時代の祭の価値」

13:15-13:55 基調講演

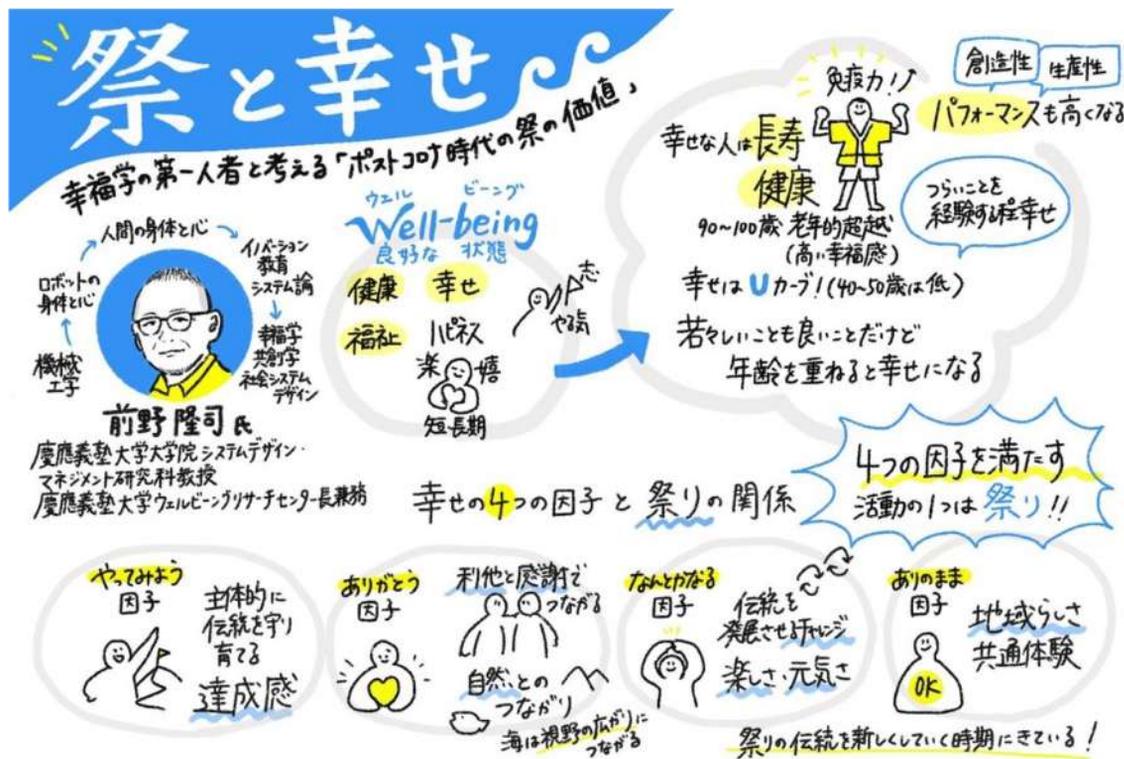
幸福学の第一人者が語る「ポストコロナ時代の祭の価値」

前野 隆司



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授  
慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長 兼務

「幸福学の第一人者と考える“ポストコロナ時代の祭の価値”」と題し、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授・慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長の前野隆司氏が「祭と幸せ」をテーマに基調講演を行い、当団体代表理事大原学と質疑応答を行いました。このセッションの中で、前野教授から、祭りは「幸せの4つの因子」を満たす活動の一つとして説明がありました。



©一般社団法人マツリズム

# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 海の祭「熱海こがし祭」の紹介

14:00-14:15 海の祭紹介（熱海こがし祭）



**小倉 一郎**

熱海銀座町内会  
熱海こがし祭 担い手



**戸井田 雄**

熱海銀座町内会  
熱海こがし祭 担い手

その後は、2018年に「海の祭体験ismプロジェクト」を当団体が初めて企画・実施した海の祭「熱海こがし祭」の担い手によるお祭り紹介。オリジナル動画を作成し、放映しました。



## 海の祭ismプロジェクト2020報告

### 14:15-15:25 海の祭ismプロジェクト2020報告

#### ①海の祭体験プログラム

**大原 学**

一般社団法人マツリズム 代表理事  
マツリテーター



**灰谷 貴光**

能登町役場 職員  
とも旗まつり 担い手



#### ②海の祭開拓・取材

**西嶋 一泰**

マツリズム 特別顧問  
島根県立大学 講師/祭り研究者



**藤井 大地**

マツリズム 学生インターン  
岩手大学



#### ③海の祭に関する調査

**永池 友輔**

マツリズム コミュニケーションサポーター  
広告系企業勤務



2020年度の海の祭ismプロジェクトでは、新型コロナウイルス拡大における社会情勢を鑑み、初のオンライン形式の海の祭体験プログラム（小学生向けに新潟県佐渡市の「琴浦精霊船行事」を題材にした探求型プログラム、大学生向けに石川県能登町の「とも旗まつり」を題材とした長期課題解決型プログラム）、コロナ禍における海の祭のオンライン取材、そして海の祭に関する全国調査の3つを主に行いました。それぞれの詳細や実施背景について報告するとともに、ポストコロナ時代における祭の価値や祭の未来に向けた提言を行いました。

# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 海の祭ismプロジェクト2020報告



海の祭ismプロジェクト

「Mission for 能登」で  
起きた変化/学んだこと



開拓・取材班



### 海の祭ismプロジェクト2020報告

## 開拓・取材班

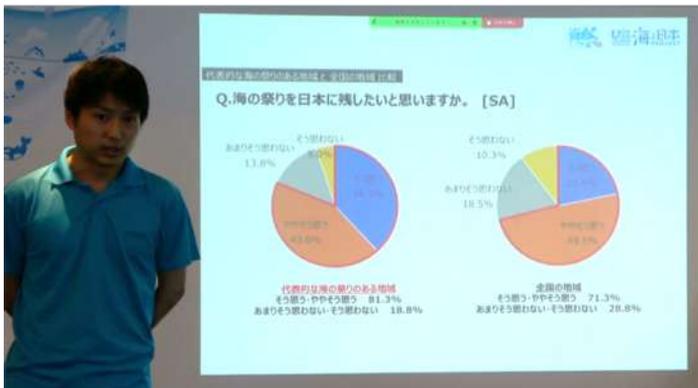
(20分)

島町)

開拓・取材班



- ・瀬戸内海の中央の島、尾道の近く
- ・中世から塩作りが盛んな佐島
- ・コロナ禍で神事のみとなった秋祭り
- ・だんじりに乗るのは中学3年まで…
- ・神事の御霊を清め、神社へ戻る際に、いつもは神輿をだんじりが追いかける  
コロナ禍では急速、棒を担ぎ出して  
だんじりに見立てて追いかける



# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 海の祭「熱海こがし祭」の紹介及び海の祭ismプロジェクト2020報告

15:30-16:05 ディスカッション

大学生と考える「海の祭」と「祭の未来」



**三井 悠**

マツリズム プロジェクトマネージャー  
環境系IT企業勤務

**岩田 なつこ**

明治大学  
農学部 食料環境政策学科



**小林 幹大**

小樽海上技術短期大学校  
航海専科

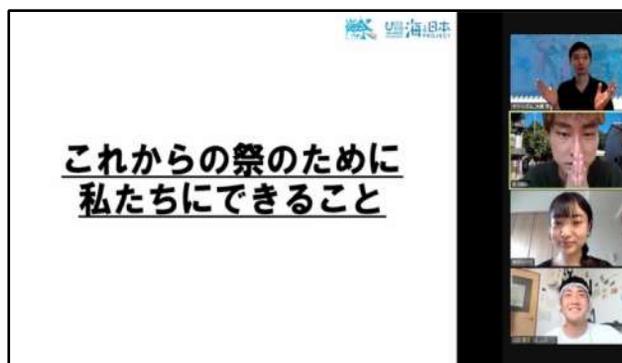
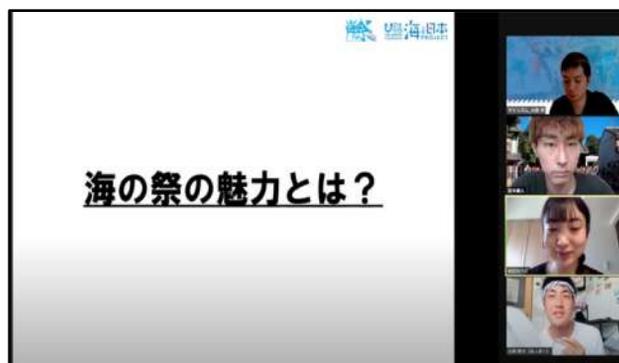


**並木 綾人**

大正大学  
地域創生学部 地域創生学科



最後のディスカッションのパートでは、「海の祭の魅力」や「祭の未来」について、過去海の祭ismプロジェクトに参加した大学生が中心となって語り合い、これからの祭のあり方に対する提言が行われました。

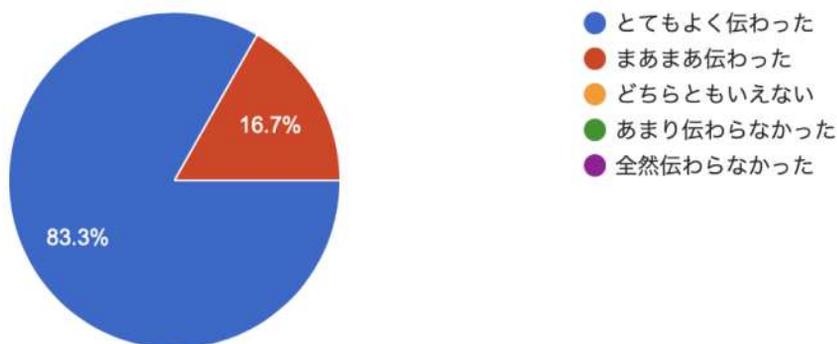


# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 参加者アンケート結果

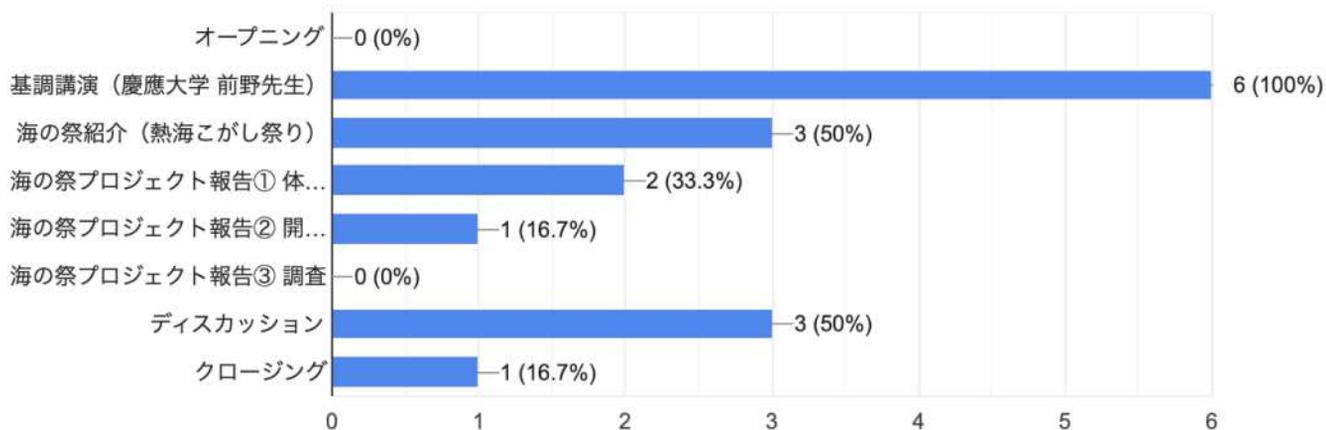
1. 今回のイベントを通して、「海の祭」についての魅力は伝わりましたか。

6件の回答



2-1. 今回のイベントで印象に残ったパートはどれですか。（複数回答可）

6件の回答



# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 参加者アンケート結果

2-2. その理由、印象に残った部分をお聞かせください。

6件の回答

前野先生のご講演が特に印象に残っています。自分がなぜ祭りに惹かれるのか理解できました。学生さんのお話を伺う中で、都会に住んでいる皆さんにも伝え方によっては祭りの持つ意味を理解してもらえ、することも改めて認識しました。

基調講演では祭りがどんな影響を人々に与えているかを分かりやすく知ることができました。ディスカッションでは、大学生の感じたこと、意見が聞けて良かったです。

長く受け継がれているお祭りが今日まで残り、受け継がれてきた理由が明確になりました。お祭り4つの因子を満たして幸福を得られるお祭りは、生きていく上で必要な要素なんだと感じました。困難な状況も乗り越え、地域に残るお祭りを残し発展させ、後世に誇れるものになれば嬉しいです。

基調講演！幸せの4因子を、端折りつつ伝え、制限時間内で「祭り」とリンクさせた内容は、素晴らしいの一言

### ①前野先生のお話

苦労やぎりぎり辛いことがあった後の方が、幸せが来るという部分が印象に残りました。やらされ感ではなく、もっとやってみよう、やってみようと思ったり、前向きに楽観的に捉えて、チャレンジしたりするのが大事だなと思いました。

### ②ディスカッション

「大人が大人になっても輝ける」「大人も熱くなれる瞬間」があると話していた部分が印象に残りました。お祭りや音楽、踊りなど、大人になっても輝ける場に飛び込んだり、熱くなれることに取り組んだりしたいなと思いました。

### ③クロージング

大原さんのお話を聴いて、1つのモノが、本当はすごく多様でごちゃっとしているのに、狭い視野でしか見えていないことが沢山あるなと感じました。自分が面白いなと思ったモノが、他の人から見たらあまり面白くなかったり、つまらなさそうと思っていたものが面白かったりすることに共感しました。

祭りの重要性についてわかった。

# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 参加者アンケート結果

3.その他、今回のイベントについてお気づきの点があればお聞かせください。

4件の回答

お祭り同様にリアルなイベントとして開催が望ましいとは思いますが、遠方でもイベントの情報を得ることができ、オンラインでの参加ができたことは大変良かったです。

「祭りは文化資源を活かした『ハレの日』」という指摘について、もっとお聞きしたかったです。（今回初参加なので、私だけ分からなかったのかもですが）

お祭りに行きたくくなりました！

九州はまた活動が届いていない。

4.自由記述欄

5件の回答

これからはこうして外から祭りに関わろうとくださる皆さんを地元の人々がどれだけ迎え入れ、新しい伝統を作っていく勇気を持てるのが祭りの未来につながるのかな、と思っています。外の人をどう巻き込むかももちろん大切ですが、外の人エネルギーを地元の人々にどのように伝染させられるのか考えたいなと思ったところです。

所用によりすべての視聴は叶いませんでしたが、今後は全国各地でのリアルイベント&オンラインを期待しております。

「祭りはウェルビーイングそのものではないか」という着眼、直前にアサインできてしまう行動力が素晴らしい！あの基調講演は、全日本人に聞いて欲しい！！

海にも行きたくくなりました！

ドンドン活動を広げてください。

# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 参加者アンケート結果

アンケートに回答いただいた中から3名の方に  
熱海の海の幸セットをお送りしました！



# 「海の祭2021～いま、これから～」について

## 内部振り返り（良かった点）

- COVID-19の感染症対策をきっちりと行った上で出来た。
- 海の日に熱海から配信をしたので、海を感じてもらえた。
- 海の祭ismポロシャツをきていたので一体感を持てた。
- 魚の干物のプレゼントに希望者が多かったので海を感じてもらえた。
- アンケートで「海に行きたくなった」という人がいた。
- YouTube liveを混乱もなく配信できた。
- 事前収録の動画コンテンツも含め、視聴に飽きない工夫ができた。
- リリースだけでは難しい海や祭に対する感情を表現できた
- 各パートの人がリハーサルをしていたため、コンテンツの質・長さともに適切なものとなった。
- web告知ページがしっかりとしていて、露出効果があった
- 熱海新聞で取り上げられた
- 事前申込制にしたことで、参加者数の予想がある程度できて良かった
- 参加申込経路が複数あったため、参加者が増えた（peatix）
- 地元の人が入ってくれるのは良かった

## 内部振り返り（反省点）

- 動き出しがいつも通りギリギリになってしまった。
- この配信を届けたかった海の祭の担い手の参加者が少なかった
- 感想として海の大切さに触れられた人が少なかった（海の祭にシフト）
- 感想アンケートの数が十分でなかった
- 熱海についての発信があまり出来なかった（災害もあって話題にしにくかった部分も）
- 熱海が中心となったが他の海の祭りの紹介も手厚く行いたかった。
- 提言・紹介はできたが、アクションに繋がる長期的な海の祭りに関われる予算が確保できなかった。
- 今後の具体的な協働につながるアクションが取れなかったこと
- 身体を伴った祭らしさを視聴者も実感できると良かった
- ジェンダーバランス
- 小倉さんの話が長かった

## メディア掲載

No.	メディア名	媒体	掲載日
1	熱海新聞	新聞・WEB	2021年7月23日
2	海と日本プロジェクト静岡県	WEB	2021年8月19日
3	神社新報	新聞	2021年8月30日

トップ > カテゴリ > ニュース > 教育・学校・文化

①

### 熱海で海の祭PJ報告会 コロナ禍での継続話す—熱海

© 2021年7月23日 3時00分

熱海市



オンラインで持続可能な祭りについて意見を交わす大原代表理事＝熱海市渚町

熱海市渚町をメイン会場に「海の日」の22日、「海の祭ismプロジェクト（PJ）2020報告会～持続可能な祭りに向けて」が開かれた。祭りの担い手支援をしている団体「マツリズム」（東京都文京区、大原学代表理事）が主催し、オンライン生中継で活動報告や祭りの魅力を語り合った。

渚町のエムズ熱海ビルに5人ほどのスタッフが集まり、大原代表がカメラに向かって生中継した。熱海銀座町内会の小倉一郎さんと戸井田雄さん、島根県や石川県、岩手県などの祭り関係者も出演した。

同団体が全国で実施した意識調査によると、「コロナ禍で失われる可能性の高い日本文化」の1位が「祭り」で、特に沿岸部地域の人が「祭りはなくなるとはいけない」と考えているという。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で、マツリズムは2016年から「熱海こがし祭り山車コンクール」で山車に加わるなどの活動をしている。

📷 掲載写真を購入

2016年から「熱海こがし祭り山車コンクール」で山車に加わるなどの活動をしている。

②



③



